

## 旅行取扱状況の概観（平成27年2月分）

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト(KNT)とKNT個人旅行、クラブツーリズム、KNT北海道、KNT東北、KNT中国四国、KNT九州、ユナイテッドツアーズ、KNT商事の合算額となります。

## 記

海外旅行の取り扱い、一般団体は前年比103.2%と上回った。学生団体も同125.6%と前年を大きく上回り、団体旅行合計で同107.3%と前年を上回った。企画旅行については同87.0%、個人旅行についても前年比91.5%と前年を下回った。

この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比92.9%と前年を下回った。

国内旅行の取り扱い、一般団体は前年比96.6%、学生団体は同88.6%、団体旅行合計では同92.3%と前年を下回った。企画旅行については同104.2%と前年を上回り、個人旅行についても同107.8%と前年を上回った。

この結果、国内旅行総取扱額としては、101.9%と前年を上回った。

外国人旅行は、前年比132.6%と前年を大きく上回った。

以上の結果、ホールディングス主要会社の2月の総取扱額は前年比99.3%となり、前年をやや下回った。

## 【主要会社の状況】

## 1. 近畿日本ツーリスト株式会社

海外団体については、一般団体はソチオリンピックの影響も懸念されたが、大型の招待旅行やコンベンションの取扱いで前年比103.5%と前年を上回った。学生団体については修学旅行および修学旅行以外の団体の取り扱い増加により同125.6%と前年を大きく上回った。この結果、海外団体旅行合計で同107.6%と前年を上回った。

国内団体については、一般団体は前年に大型の企業系コンベンションを取り扱った影響もあり、前年比97.6%と下回った。学生団体は取り扱い団体本数の減少に伴い前年比88.6%と下回り、国内団体旅行合計で前年比92.7%と下回った。

## 2. 近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社

メイトは、取扱額で前年比101.8%と前年を上回った。方面別取扱人数の状況では、関西方面が好調を維持しているのに加え、信州、中国四国、九州方面も好調であった。

ホリデイは、引き続き東アジア方面を中心として全般的に不調である。各方面とも低価格帯商品のラインナップを縮小させた影響もあり、全体の取扱人数、取扱額とも前年を下回った。

## 3. クラブツーリズム株式会社

海外旅行部門は海外SITが好調に推移した。特にリオのカーニバル鑑賞商品や、ボリビアのウユニ塩湖を訪れる商品がヒットし、取扱額で前年比105.8%と前年を上回った。

バス旅行を除く国内旅行部門は、同96.8%と前年を下回った。

バス旅行部門は、首都圏での白川郷ライトアップ鑑賞商品や関西での北陸方面商品が好調であったことや、前年の雪害の影響による反動もあり、前年比110.2%と前年を上回った。

テーマ旅行部門は、国内ひとり旅やカルチャー系の商品が好調であったことや、前年の雪害の影響による反動もあり、同109.4%と前年を上回った。

以上